

社会科学習指導案

5年1組 安野 雄一

1. 単元名 「インターネットは世の中を“豊か”にするのか」

2. 研究主題

社会的な見方・考え方が働く単元の開発を通して、3つの実践力を育む ～過去・現在の社会的事象に学び、未来を「そうぞう」する子どもたちを育む場の構成～
--

(1)単元について

子ども達は、地理学習(「1世界から見た日本」～「9情報をつくり、伝える」)について、資料や書籍、ICTなどを活用しながら調べて、様々な立場・視点から考え、価値判断し、対話する中で学びを深める活動などを通して学習を展開してきた。その中で、それぞれの産業と私たちのくらしの関係について、過去・現在の社会的事象と未来の在り方を結び付けて考え、よりよい未来を「そうぞう」する学びを展開してきた。本単元では、主に情報ネットワーク関連産業に直接関わる人との対話もしながら、日本や世界の社会の情報化が進展していることや、情報化した社会においては情報の有効な活用が大切であることについて調べて考え、価値判断を深めていくものとする。その上で、過去―現在の社会的事象を捉え、未来を「そうぞう」する学びを行い、知識の整理をしつつ、より社会認識を高める学習を進めていく。

(2)単元の目標

- 情報を取りまく過去・現状や課題などから、その働きが、国民生活にさまざまな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用が大切さについて、進んで資料や書籍、ICTを活用して調べて考え、情報利用の在り方について価値判断・意思決定することができる。
(関心・意欲・態度及び思考・判断・表現、知識・理解)
- 日本や世界の情報化した社会の様子について、絵図や文書資料、年表、地図などの基礎的資料を効果的に活用して、他者と協働して社会的事象について調べたり対話したりしながら、より高次な思考をし、価値判断・意思決定したことを使って、表現することができる。(観察・資料活用の技能及び思考・判断・表現)
- 日本や世界の社会の情報化が進展していることや、情報化した社会においては情報の有効な活用が大切であることについて調べたり、考えたり、価値判断・意思決定したりしたことをもとに、よりよい未来(社会)を「そうぞう」することができる。(観察・資料活用の技能及び思考・判断・表現)

(3)活動構成の仮説

①主体的且つ協動的にアクティブな学びを展開する事で、積極的に社会的事象と関わろうとする子どもが育つ

日本や世界の社会の情報化が進展していることや、情報化した社会においては情報の有効な活用が大切であることについて、自ら調べて考え、価値判断・意思決定し、他者との対話・討論を通して、自他の調べて考えたことを比較したり結び付けたりして考える(思考を揺さぶり合う場を設ける)ことで、子どもたちはより積極的に社会的事象と関わろうとする力を高めることができる。

②過去―現在―未来を結び付けて調べて考え、価値判断することで、社会認識がより高まる

過去―現在の社会的事象、特に本単元では、全単元「情報をつくり、伝える」で学習したことや生活経験を踏まえた上で、未来の社会や自分の生き方を「そうぞう(想像・創造)」する学びにまでつなげる事で、知識を再構成するとともに、より社会認識を高める事が可能となる。また、自分たちが生きる未来について思考を進める中で、よりよい社会の形成者としての公民的資質の基礎を養う事ができる。

3. 単元計画 (8 / 11 時間)

